

自分たちの生活を自分たちの力で～5年 花背山の家長期宿泊学習～

ピンクや青色の紫陽花の花が美しく咲く梅雨の季節を迎えました。今年は比較的涼しく過ごしやすいように感じています。

さて、学校では6月24日（金）～6月27日（月）に、5年生児童103名が長期宿泊学習で左京区にある花背山の家に行ってきました。

今回の宿泊学習では、子どもたちは自然豊かな花背山の家で普段できないことをたくさん体験しました。そして、これらの体験を通してたくさんのこと学びました。それは、自分たちの生活を自分たちの力で作り、いかに楽しく過ごすかを試行錯誤する毎日でした。

まず、自分たちが山の家の食事で使う箸作りです。一人一人が竹を小刀で削って作りました。そして自分たちが食べるものを自分たちの力で作った2度の野外炊事。なかなか火がつかなくて困っていた班もありましたが、できあがったすき焼き風煮やカレーライスをいただくときには、みんな満面の笑顔でした。また、冷たい山水の流れ込む池に放流されたイワナを自分でつかみ、さばいて、炭火で焼いていただくという貴重な経験もしました。ハサミを手にしたまま、イワナをさばくことができずにしばらく佇んでいた子どもの姿もあったと聞きました。命をいただくということの重みを実感していたかもしれません。

一方、雨天のため三本杉登山はあきらめましたが、子どもたちは室内でのボルダリングをとても楽しんでいました。他にも冒険の森でのアスレチック、キャンプファイヤーを盛り上げ、楽しくできるようにと自分たちで工夫しながら活動する姿が見られました。

仲間と寝食を共にしながら、様々な活動を進め、4日間の宿泊学習を終えた子どもたちの姿は、一回りも二回りも大きく立派に見え、それぞれの成長を感じさせてくれました。

今回、5年生の子どもたちの姿から、仲間同士が、あいさつを含め、互いを思いやる声（ふわふわ言葉）を掛け合い、力を合わせて生活していくことが、自分たちの生活をより良く、より楽しくしていくために、大切であるということを学ばせてもらいました。さまざまな活動を行うとき、一人でやるより協力して進めるほうがはるかに効率よくできることがたくさんあります。また、協力するということは、班の中での自分の責任を自覚でき、活動を進める上の励みにもなります。そんな、当たり前ではあるけれど、日々生活していく上で、とても大事なことを子どもたちとともに学ぶことができました。

7月22日には、5年生の子どもたちが西京極タイムで、今回の宿泊学習のことを発表してくれます。他の学年の児童に自分たちが学んだことを自分たちの言葉で豊かに伝えてくれることを期待しています。